

日野総合事務所だより

2012 Mar 第46号

月おくれひなまつり
おしなさまを飾って
ますを元気に・・・

奥大山ひなまつりコレクション



写真：平成23年4月ひなまつりコレクション（江府町江尾）

【今年は平成24年4月2日から8日まで江尾区内で開催！ 奥大山ひなまつりコレクション実行委員会 主催】

日野郡の元気

～地域の取組み紹介～

鳥取県

- P2 | 特集：日野郡の元気～地域の取組み紹介～
 - ◇きっかけは人の縁（多里まちづくり推進協議会）
 - ◇人のつながりが実を結ぶ（山上まちづくりの会）
 - ◇鳥取力創造運動6団体の取組み紹介
- P6 | 因幡伯耆國開運八社巡りで地域に御利益を！
- P8 | 河川・道路ボランティア活動団体の募集
- P9 | 日野町に福祉事務所が誕生
日野川流域森づくり実践講座
- P10 | まんがコーナー設置のご案内ほか

日野郡の元気 地域の取組み紹介

平成23年度鳥取力創造運動支援補助金を使った地域の活動をご紹介します。



多里のまちをまわるかしら打ちの様子

きっかけは 人の縁

多里まちづくり推進協議会
会長 山形美智也さん (日南町)

「エーツァ。」ドンドンドン。
太鼓の音とともに五穀豊穡を感謝する多里かしら打ちのお囃子が街に響き渡ります。ここは、東京下町、台東区谷中のみせ通り商店街。道行く都会の人たちが足を止めて興味深そうに見入ります。

東京で日南町を披露

昨年11月、多里まちづくり推進協議会は、東京下町の商店街で「多里かしら打ち」（県指定無形民俗文化財）を披露するとともに、特産の団子汁を作り、地元の新鮮野菜や加工品、はんざけ（オオサンショウウオ）グッズなどを販売しました。

きっかけは、大切にしてきた『人の縁』でした。よみせ通り商栄会の青年部長 野田俊行さんが、多里在住の農業研修生 長谷川直人さん（東京都出身）とご友人で、何度か日南町を訪れていたそうです。野田さんは、地域の活動に積極的に参加する長谷川さんの「多里は第二の故郷」という思いに共感。また、自然の豊かさ、食の美味しさを高く評価して

いたこともあり、今回のイベントへの参加を呼びかけ実現しました。



商店街イベントには約2,000人が来場。

広がる『人の縁』

イベント当日、商店街で田舎の祭りの雰囲気を楽しんだお客さんが、ブログや動画サイトでかしら打ちの様子を紹介したり、観光の問い合わせをするなど、PR効果は絶大でした。

また、イベントに来られたお客さんから「野菜を送って欲しい」と声がかかり、後日「東京旬菜便」として発送。その後、知り合いにもぜひ紹介したいと、野菜だけでなく餅やコンニャク、山菜の塩出しなども希望され、今や月2回、5件のお客さ

んに発送するまでになりました。まさに『人の縁』が地域の元気を呼び込むポイントとなっているですね。「来年もぜひ参加してほしい」と言われているそうです。

協議会の山形会長は、「単発イベントで終わらせず、例えばトマトやリンゴなど地元食材を使ってお菓子づくりをしてみようなど、継続的な交流を目指していきたい。また、いずれは収穫体験など東京と多里との交流をしたいという長谷川さんの思いを実現したい。」と今後の抱負を語ります。



「東京旬菜便」



山形美智也会長

人のつながりが 実を結ぶ

やまがみ

山上まちづくりの会

会長 近藤仁志こんどうひとしさん（日南町）



森の中でチカチカ光るヒメボタル

「人生で最高の夜でした。」
『まるでダイヤモンドのように美しく美しかった。』
『懸命に自然やその美しさを守っている人たちを誇りに思います。』
：「これらは、遠くアメリカカロサンゼルスから日南町福万来ふくまきにホタル鑑賞に訪れたお客さまから寄せられた感想です。」

アメリカとつながった!

福万来は、ゲンジボタルとヒメボタルが同時に鑑賞できる全国でもまれな生息地。“知る人ぞ知る”だった鑑賞者が年々増え、昨シーズンは15日間で延べ800人。その中には、なんとアメリカからのお客さんも。お子さんの「ホタルを観たい!」の声に、お母さんがインターネットを検索し、“福万来のヒメボタル”に行き着いたそうです。

地道な保護活動

10年程前、福万来のヒメボタルが地元でもあまり知られていなかった頃、口コミで鑑賞者が訪れるようになってきました。ヒメボタルが光や音に弱いと知った地元の坪倉久光つぼくらひさみつさんら数人が、「車のライトや懐中電灯をホタルに向けないで」「大きな声や物音を立てないで」「タバコの火を消して」など、現地で鑑賞者に呼びかける活動を始めました。

それから数年後、平成17年に設立した地域住民のまちづくり組織「山上まちづくりの会」で保護活動に取り組むことになりました。

現在では、生息地道路沿いに遮光ネットを張ったり、新しく駐車場を



専門家を招いての住民学習会

整備したり、住民が交替で鑑賞者の誘導やマナー啓発を行っています。

さらに、昨シーズンは、町内外の交流につなげようと、PRキャラクター「福ひかる」くん、「万来あかり」ちゃん“を作り、Tシャツやうちわなどのグッズも販売しました。

今シーズンはさらに鑑賞者が増えると予想され、同会近藤会長は、「私たち住民が、ホタルの生態や適環境を学ぶとともに、ガイドを養成して、鑑賞者にマナー厳守をより一層呼びかけていきたい。」と語ります。



マナー啓発チラシや
関連グッズ



近藤仁志会長

問い合わせ先

県民局企画県民室
電話0859-72-2086

鳥取力創造運動

日南町
プロジェクト山帰来さんきらい
代表 岸 和夫さん

4組の夫婦で、森林ボランティアや音楽・手芸の交流等を行っているグループ。

昨年6月、日南町阿毘縁のハーブ園「ハーブデイズ・アボンリー」で、「手作り“や”古き良きもの“をテーマに市を開催。約20店が出店し、作品展示や商品販売が行われ、2日間で町内外の延べ750名が楽しみました。5年目となる今回、初めての試みとして、無人朝市や手作り工房、蕎麦屋、美術館などと連携し、来場客を町内へ周遊させる取組をしました。



「バラ香る小さな“杜の市”」

江府町
グラウンドワーク大山蒜山だいせんひるぜん
代表 徳永 巧さん



江府町ブナの森での雪原自然体験プログラム

大山蒜山地域をエリアとして、すぐれた自然、景観、文化遺産を保全活用し、『持続可能な地域社会を構築すること』を目的に活動しているグループ。

大山の冬の景観や風物詩を活用したエコツアーづくりをしようと、今年2月、小学生の親子を対象に、バスで冬景色を楽しんだり、ブナの森をスノーシューで散策したりするイベントを試験的に実施しました。

積雪状況や景観資源、道路交通状況の調査も行い、今後のエコツアープログラム作りに活かしています。

江府町
美用レディース加工グループみよう
代表 川上 幸恵さん

約15年前から、トマト栽培をしてケチャップやジャムを作っている美用集落の女性グループ。

商品開発で活動を活性化させ、都市と農村の交流や仲間作りを進めようと、このたび新しくドレッシング作りに挑戦。地域のレストランなどの協力も得て、トマトの甘さやフレッシュ感が活かせるよう試行錯誤を重ねました。

また、お客さまに商品を手にとってもらえるよう、商品ラベルやキャッチコピーを勉強中です。



平成24年2月、ドレッシングを試作

日野町
しいたけマンの会
代表 久代 宏一さん



雑木林が“宝の山”になることを願って

かつては県内有数の椎茸産地だった日野町。椎茸栽培を通じて山の荒廃を防いだり里山を再生しようと、平成22年から活動しているグループ。前年に引き続き、栽培の方法や経営術を学んだり、新たに原木椎茸の美味しさをPRする料理教室も企画しました。

同会には、椎茸栽培に取り組もうと兵庫県からインターンしてきた若者や、冬の仕事にしようと意気込む水田農家加わり、椎茸産業復活にむけて着実に前進しています。

多里まちづくり推進協議会と山上まちづくりの会の他にも、6団体が平成23年度鳥取力創造運動支援補助金の支援を受け、活動を行いました。

おおみや里山まつり実行委員会
委員長 西村 利史さん



あいにくの雨で体育館で実施

地域の食材や歴史などの資源を活用し地域内の連帯感を深めようと、大宮まちづくり協議会が中心となってイベントを開催。

昨年11月の「おおみや里山まつり うまいもん市」では、試験養殖しているドジョウのつかみ採りや唐揚げの販売、蕎麦打ちや米のすくい取りなどのお楽しみが多数用意され、会場は大いに賑わいました。

これまで菅沢ダム周辺を会場として行っていたものを住民に身近な旧大宮小学校に変更し、「たたら楽校 大宮楽舎」や古民具展示コーナーなどもPRしました。

スタッフの負担軽減や町外から気楽に出かけてもらえる工夫などが今後の課題です。

白つつじの会
生田長江顕彰会
代表 河中 信孝さん

日野町出身の文学者 生田長江を多くの方に知ってもらおうと、平成19年に日野町図書館が事務局となり発足したグループ。

顕彰会では、これまであまり知られていなかった長江の詩に着目し、詩集を刊行。町内外の図書館のほか、全国の研究者や長江の弟子や交友があつた人の記念館などにも送り、今後の長江の研究の手がかりすることができました。



詩集刊行のセミナーを開催

★生田長江（いくたちちようこう）

明治、大正、昭和にかけて活躍。ニーチェ全集の翻訳、夏目漱石や森鴎外などの作品の評論を手がけた。また、生田春月や佐藤春夫などの多くの弟子を世に送り出し、平塚らいてう等の女性文芸誌「青鞥」を名付け、その活動を支援するなど文壇に偉大な業績を残した。

鳥取力創造運動支援補助金のご案内

活力ある地域を創造するため、様々な主体の多様な取組を支援します。年3回、事業の募集を行う予定ですので、ぜひご応募ください。内容は変わることがありますので、詳しくはお問い合わせください。

★一次募集 3月19日（月）～4月16日（月）
（ビジネスモデル創出型は5月10日（木）まで）

【補助金の概要】

●スタートアップ型（新規）

上限10万円（補助率10/10）

●スタートアップ型（継続）

上限10万円（補助率3/4）

継続していくための取組

●発展型

上限100万円（補助率3/4）

他のモデルとなり地域活性化に貢献する取組

●ネットワーク型

上限200万円（補助率3/4）

複数の活動団体が協力・連携して新たな成果を生み出す取組

●ビジネスモデル創出型

上限500万円（事業実施期間は2年間、補助率は1年目3/4、2年目2/3、※そのうち人件費部分は上限を300万円とし、補助率は2年間ともに10/10）

地域活性化につながる取組で、継続的に収入の得られる仕組みを確立する取組

【対象団体の例】

NPO、ボランティア団体、自治会、企業（社会貢献的な活動）など

【対象活動の例】

環境、福祉、地域交流、文化、農林水産、観光、地域催事など地域活性化を図る取組

問い合わせ先
県民局企画県民室
電話0859-172-2086